

◇第5回「ジャーナリストをめざす日韓学生フォーラム」in 九州の参加者募集案内◇

2019年11月

日韓学生フォーラム実行委員会

日韓学生フォーラムと銘打ったこの試みは、ジャーナリストを目指す日本と韓国の学生が集い、それぞれの問題意識を共有しながら、ジャーナリストとしての視点を育んでもらおうと企画しました。ジャーナリストの原点は何よりも「平和と人権を守る」こと。そうした原点を学ぶ機会にしたいと思っています。

このフォーラムの第1回は2017年11月に韓国ソウルで、第2回は昨年8月に広島、第3回は今年2月に沖縄、第4回は5月に韓国・光州市で開きました。各回とも日韓を中心に約30人の学生が参加し、交流を深めています。

第5回は2020年1月、福岡県・筑豊の旧産炭地、熊本県の荒尾市、水俣市を訪れます。テーマは「反骨のジャーナリストの足跡をたどる旅」です。

※ ※ ※

国内最大の産炭地として日本の近代化を支えた福岡県の筑豊は、戦時中の朝鮮人強制労働など負の歴史もかかえま
す。そこには生きて故国に帰ることのなかった朝鮮人労働者らの墓地などが残されています。さらに国家の繁栄の陰で、
九州には様々な公害が発生しました。熊本県水俣市の有機水銀中毒「水俣病」など、経済発展を優先する国と企業のも
たれあいによって人々の命と健康が奪われました。

こうした近代日本の負の歴史を追い続けたジャーナリストたちがいます。筑豊に暮らし、炭鉱の記録を続けた上野英信
(1923～1987年)や林えいだい(1933～2017年)、水俣病の語り部といわれる石牟礼道子(1927～2018年)らの原点
は、被害者への共感と反権力の視点でした。今回の「ジャーナリストをめざす日韓学生フォーラム」in 九州は九州に残され
た強制労働や公害の歴史をたどりながら、記録者たちがこの問題にどのように向き合ってきたかを学びます。

○フォーラムの概要

■日時：2020年1月29日(水)～2月2日(日) 4泊5日 福岡市に現地集合。熊本県水俣市で解散

■予定プログラム(12月中旬までに決定)

- ・福岡県飯塚市：地図にないアリラン峠 炭鉱跡の無縁墓地
- ・福岡県田川市：田川市石炭歴史博物館 韓国人徴用犠牲者慰霊碑
- ・熊本県荒尾市：三池炭鉱万田坑跡(世界文化遺産)
- ・熊本県水俣市：水俣病資料館 水俣病センター相思社

■費用

- ・宿泊(1泊約3000円程度×4泊)、九州での交通費、食費別で2万円程度

*実行委員・事務局も同行します。

■募集：ジャーナリズム関係の大学研究者、日本ジャーナリスト会議、新聞労連などを通して呼びかけ。*参加学生
の目安 日本側20人、韓国側10人

■申し込み先 日本ジャーナリスト会議(JCJ)・須貝 JKforum17@gmail.com

(氏名・所属大学・学年 連絡先メール・携帯 を明記)

■問い合わせ 新崎盛吾

須貝道雄

文聖姫

古川英一

■ 申し込み締め切り 2019年12月28日(土) *定員に達した場合、早めに締め切ることもあります。

■ 宿泊先情報

1月29日・30日泊 Stay 博多(アパートメントハウス) 福岡市博多区住吉 3-9-22

<https://stayhakata.book.direct/ja-jp/rooms/deluxe-apartment>

1月31日・2月1日泊 相思社(水俣市)の集会棟・宿泊棟

http://www.soshisha.org/jp/support_learning/sta

○ 実行委員

・新崎盛吾(新聞労連元委員長、共同通信記者)、植村隆(韓国カトリック大客員教授、週刊金曜日発行人)、喜多義憲(北海道文教大学非常勤講師、元北海道新聞ソウル支局長)、隈元信一(青山学院大学非常勤講師、元朝日新聞論説委員)、須貝道雄(JCJ、元日経新聞記者)、高橋弘司(横浜国立大学教員、元毎日新聞記者)、往住嘉文(JCJ、元北海道新聞編集委員)、成川彩(元朝日新聞記者)、西嶋真司(ドキュメント・アジア、元RKB毎日放送ディレクター)、西村秀樹(同志社大学嘱託講師、元毎日放送記者)、菱木一美(広島修道大名誉教授、元共同通信論説副委員長)、藤森研(専修大学教授)、古川英一(JCJ、元NHK記者)、水野孝昭(神田外語大教授、元朝日新聞論説委員)、南彰(新聞労連委員長、朝日新聞記者)、村上雅通(映像プロデューサー、長崎県立大学名誉教授)、文聖姫(週刊金曜日編集者、博士)、吉原功(明治学院大学名誉教授)ほか